



『読者の声お返事コーナー』

このコーナーは、本市広報誌である「広報ひおき」内の読者の声に協力していただいた方へのお返事ページです。広報誌に掲載させていただいたお便りから、残念ながら誌面のスペース上の関係で掲載することができなかつたお便りまで。協力していただいた感謝の気持ちを含めて、隣でキャラクターがお返事書かせていただいております。今後とも本市広報誌「広報ひおき」をよろしくお祈りします!!



10月号のお題

～先月のお題は『それは奇跡から始まる物語感想話』でした～

2歳の娘は表紙の赤ちゃんが泣いているので、私に「ひおき」を「抱っこしてあげて」と持って来たり、絵本を見せてあげたり、おもちゃを持ってきてあやしていました。

2人目の子を流産したばかりでしたが、娘のそんな姿を見てもう一度頑張ってみようかなと思えました。

13ページのポエム、私も涙が出ました。再び授かることができなくても、今いる我が子を奇跡だったんだと改めて感じる事ができました。

(もこさん 伊集院町 30代女性)

今月の特集、興味深く読ませていただきました。現在、日置市での妊活マガジン作成に向けて福祉課の方々頑張っているなか、このような特集があり少し驚きました。

日置市出生率が高いのかなと思っていましたが、ここ2年間は低い数値のようで、日置市も少子化が進んでいくのかな…と気になりました。また、40代の中絶が多いことにショックを受けました。不妊で悩む方もいれば中絶する人もいます。この特集を読み、我が子にあらためて「ありがとう。私の子に生まれてきてくれてありがとう」と感謝の気持ちでいっぱいです。

(K・Tさん 伊集院町 30代女性)



お便りありがとうございます!届いたお便りを拝見させていただきながら、私の目に熱い想いが込み上げてきていました。この世に一つとして同じものはないかけがえのない命。ぜひこれからもご息様と一緒にすてきな日々を過ごされてください。

お便りありがとうございます!社課の方とも広報誌、妊活マガジンと二重にお伝えしたいとのこと特集させていただきました。私自身も婚活マガジンもとても楽しみです。人口については半世紀以上かかる問題になっています。未来のために今できることを。



私が出産した時、母が言うには、この世にでてきたら笑いがあると同時に苦しみ悲しみの涙がある。それでも「いいか」と問われ「はい」と返事するとお尻を押され産まれてくる。その時で来たのが蒙古斑だと。これが母の思う誕生です。

それじゃこの世に生受けなかった命は…思い考え方も人それぞれ十人十億(?)色デリケートなテーマですが、ひおきを囲んで「それは奇跡から始まる我が家の物語」のきっかけになりました。

(変えてもいいかな?さん 日吉町 50代女性)

10月号の表紙、生まれたての赤ちゃんの力強い今にも泣き声が聞こえてきそうな元気良さにドッキリ感動でした。

ページをめくったら何とまたかわいい女の赤ちゃん。やさしくて愛らしい表情にすっかり幸せな気分させられハッピーでした。「天使の泣き声」「天使のほほえみ」。この頃にだけ感じられる泣き声、表情なのかもしれませんね。どこの赤ちゃんだろうと思っていたら、女の赤ちゃんはすぐ近くの友達の子ちゃんでした。日置市の赤ちゃんの未来にカンパニー。

(R・Hさん 東市来町 60代女性)



お便りありがとうございます!ひおきを囲んで「我が家の物語」を思われるきっかけになったとのこと。内容もですが、その考えるきっかけの一助になれたことが本当にうれしい限りです。考え方は十人十億色。そのことを基礎として、また一歩進めることができたらと思います!!

お便りありがとうございます!見開きの写真は、私も写真につけたタイトルが「天使の微笑み」でした。R・Hさんがおっしゃるように、この時にしか感じるこのできないかけがえのないもののような気がします。未来に生まれてくるかけがえのない子どもたちが笑顔で過ごせることを祈って、カンパニー!!(笑)。





『読者の声お返事コーナー』

このコーナーは、本市広報誌である「広報ひおき」内の読者の声に協力していただいた方へのお返事ページです。広報誌に掲載させていただいたお便りから、残念ながら誌面のスペース上の関係で掲載することができなかつたお便りまで。協力していただいた感謝の気持ちを込めて、隣でキャラクターがお返事書かせていただいております。今後とも本市広報誌「広報ひおき」をよろしくお願ひします!!



10月号のお題

～先月のお題は『それは奇跡から始まる物語感想話』でした～

貴課で発行の広報誌「ひおき」を楽しみに拝読させて頂いております。先日、自治会便にて届いた10月号の特集「それは奇跡から始まる物語」に深い感銘と私なりの想いを抱きました。

私は、およそ2カ年前まで、学校現場で教育職に就いておりました。約37年余り、時代の流れに時にはつまずきそうになりながらも、どうにか与えられた職を全うすることができました。そして、現在は時折お声のかかるパートアルバイトに、時には生涯学習講座に、また、本市図書館、県立・鹿市立・松元・東市来図書館などにおにぎり持参で通い、現役時代には読み通せなかつた諸々の本に埋没する日々を起こっております。もともと、中学校理科教師です。最期は、隣町いちき串木野市の某中学校で定年退職致しました。

私が最も大切にしてきた教育の柱が「命の教育」です。特に、30歳代後半から、道徳教材に「生と死」について取り上げることに懸命になりました。その事が時の上司に認められたのでしょうか。県教委の出先機関で「命の尊さを考える」読本の編集に携わりました。その中で「生きる意味」「市を捉える方途」等々、身を削るような思いで研学しました。その熱い思いが、定年を迎えるまでの10数年間、ずっと私の中でゆっくりと燃え続けました。縁あって管理職を命じられ着任した当時の中学校で、これまた偶然に、私の情熱をさらに熱くする使命が与えられました。「次世代育成支援行動計画」策定の委員長役です。と申しますのも、私が勤める中学校が「ふれ愛セミナー」と称して数年前から行っている特色ある教育活動が過大評価されたのでしょうか。行政と中学校がタイアップし、妊産婦や新生児の検診の場に生徒たちを参加させ、新生児の世話を手伝ったり、自分たちも妊婦さんの模擬体験をしたりしました。

今回、貴課発行の「ひおき」で10ページ余りを使って執筆・編集なさっている特集に私の「かつての熱い思い」が再燃した訳がご理解いただけると思います。「少子化」「少子化」と叫ばれますが、それは間違い。本当は「小親化」です。親になりづらい。親になる苦勞が「やってらんない」身勝手な思い。子供は持たずに、夫婦それぞれに自分自身の人生を楽しむが勝ち。結婚しても絶対に親にはなりたくない・・・そんな、う

がった思いが今の少子化の要因である・・・養老孟司氏の著書にも同様のことが著述されていました。

ですから、私は、自分の哲学としてコメントさせていただきました。「子どもが授からないご夫婦に対する支援」もとても有難い施策です。大いに賛同します。しかし、最も重大なのは、今の若者たちの思想。「望まない妊娠」「中絶」以前に成すべき事、それが次世代育成の考え方です。

回りくどい言い方になって申し訳ありません。要は「思春期のさ中にある中学生への教育」です。私が前述した取り組みには続きがあります。それは、追跡調査です。私が勤めた中学校の生徒と他中学校の生徒の将来(8～10年後)の追跡調査です。はるかに婚姻率が高かつたです。そして、中絶数はほとんどゼロに近い数字で、他の卒業生とは比較にならない程の実績でした。やはり「命の尊さ」「奇跡の物語」→今のあなたを考えさせるために良き影響・感化を与える時期は中学生です。その意味で、P12に取り上げてくださっている体験教室の取り組みがととても嬉しく頼もしく思いました。それを、本市健康保険課(福祉課)とタイアップして、継続的に、そして市内全中学校の教育課程に必然的に位置付けて実勢なさをことを提案致します。正直なところ、高校生では遅すぎると思います。

本市が文化的に、経済的に、どう潤っていけばいいのか・・・という短期的課題に併せて、将来の人口減・将来の日置市民育成をぜひ行政に生かしていただけたらと思ひ、まどろっこしい文章で失礼でしたが一筆差し上げました。

最後になりますが、素晴らしい特集を組んでいただき、嬉しいでした。貴課そして職員の皆様の益々の御活躍を祈念致しております。

(Zousanさん 伊集院町 60代男性)

お便りありがとうございます!たくさんのご意見をいただきましてありがとうございます!!Zousanさんにとって、何か考えていただくきっかけになりましたこと、とても嬉しく感じております。ご提案いただいた件につきましても、担当課に繋がせていただきたいと思います。





『読者の声お返事コーナー』

このコーナーは、本市広報誌である「広報ひおき」内の読者の声に協力していただいた方へのお返事ページです。広報誌に掲載させていただいたお便りから、残念ながら誌面のスペース上の関係で掲載することができなかったお便りまで、協力していただいた感謝の気持ちを含めて、隣でキャラクターがお返事書かせていただいております。今後とも本市広報誌「広報ひおき」をよろしく願います!!



10月号のお題

～先月のお題は『それは奇跡から始まる物語感想話』でした～

意欲的な特集記事に拍手!です。ただ、タイトルにもある「奇跡」が当然のように語られていて、本文中にちらほら出てくるもののいまひとつ訴えてきません。きっと私が今生きているのも奇跡。生まれてきた使命を果たすべく、精一杯に生きなくてはね。

精力的な記事に感激しつつも、伝えたい意見がたくさんありまして、別紙にまとめました。細かい点やお気に触る点もあるかと存じますが、お目通し下さい。

P4タイトル「これからの未来に生まれくるかけがえのない命」

→内容を過去のデータに基づいた未来予測「とどまらない人口減少」では?この内容が最初に有ることに違和感を覚え、人口問題の大切さを訴えたかった特集記事なのだろうかと理解しています。“命の大切さ”“かけがえのない命”という口当たりの良いキャッチフレーズを安易に使わないで下さい。未来の命は私たちの為や地域社会のためにあるのですか?

P5中見出し: 真実はずっとそこにあった

→意味不明“真実”とは何でしょう?

P6低出生体重児の問題

→死産の可能性もあり、医療費がかかり(乳児期だけでなく成人してからメタボにもなりやすいとわかっています)、育てる母親の負担も大きいとても深刻な問題だと考えています。前ページのようにデータを図表で示していただけると訴えてくると思います。その原因は歯周病だけでなく、若い娘たちのモデル並のやせ願望もあり、妊娠中さえも十分な栄養を取っていない可能性があります。

P7動画が見られるなんてすごいですね!

→受精卵に至るまでが実は奇跡といえる確率(P12の写真の中にありますね)で、3億もの異なる遺伝情報を持った精子のうちたった1つが、異なる遺伝情報を持った数百万の卵母細胞のうちその時成熟できたたった1つの卵子と受精するのです。これが自分が唯一無二の存在であるという事実なのです。虐待されたり親の愛情をもらえなかったりする子どもでさえも、かけがえのない存在なのだを教えてあげたい。この点をもっとクローズアップして欲しかったです。

P8くすもと産婦人科

→地域に産婦人科があるのは当然なようで一時期な

かった。ありがたいことです。近所のお母さんたちは串木野か伊敷まで通っていたようです。これでは働きながら産むのは大変ですよ。

P8加齢による妊孕性の低下

→むかしはおせっかいなおばさんがいて「早く結婚しなさい」とせっついたのでしたが、その意味を理解されないまま、女性の社会進出や権利のために忘れられていたようです。女性を取り巻く環境が変わらない社会の中で、男性と同様に働く女性には多くのストレスがかかり、不妊の原因になっているのではないかと思います。

50代で妊娠した人がいると話題になり、そんな年齢でも妊娠できるのだと思い込む人もいることでしょう。でもおそらく50代の妊娠は初産ではなく、妊娠しやすい女性でしょう。近年ようやく35歳を過ぎたら卵子が老化して妊娠しにくくなるのだと産婦人科でも理解が広まってきましたが「知らなかった」と後悔する夫婦がこれ以上増えないように、一般の成人に教育をしっかりとすべきです。現在の不妊治療は4人に1人の患者が子どもを授かる程度のもので(紹介されている事例は36歳で、治療しなくても妊娠可能な年齢です)。

P9妊娠中絶

→10代の中絶は知識不足や人間的に未熟なためで大人にも責任があると思いますが、40代の中絶はおそらく十分な数の子供を得ていることから安易に行われているようで憤りを感じます。いずれもわがままな男性と自立していない女性が引き起こしている不幸のように思えます。

女性が大切にされていない県とは実感していましたが、中絶率全国3位とは知りませんでした。この愧ずべき点はもっと周知して改善すべきです。中絶しておいて「命の大切さ」なんて言えないだろうし、中絶した女性は身体だけでなく心にも深い傷を抱えて生きていると聞きます。

P9図書館とのコラボ

→素晴らしいですね!「へえ、そう」から自分の興味として理解しようとする一歩は大きなものだと思います。広報誌の役割は大きいですね!

次ページに続きます



『読者の声お返事コーナー』

このコーナーは、本市広報誌である「広報ひおき」内の読者の声に協力していただいた方へのお返事ページです。広報誌に掲載させていただいたお便りから、残念ながら誌面のスペース上の関係で掲載することができなかつたお便りまで。協力していただいた感謝の気持ちを含めて、隣でキャラクターがお返事書かせていただいております。今後とも本市広報誌「広報ひおき」をよろしくお願ひします!!



10月号のお題

～先月のお題は『それは奇跡から始まる物語感想話』でした～

P10不妊治療の流れ

→このようにわかりやすい図は初めて見たように思います。不妊といえばまだまだ女性に原因があると思ひ込んでいる人も多いようなので、それぞれの割合も示してあったら良かったかなと思います。”機能性不妊”がよくわかりませんが、「原因不明」なのではないでしょうか？

そして不妊治療が必ずしも妊娠に結びつくものではないことをはっきり書いて下さい。”出口のないトンネル”の本当の意味だと思ひます。卵子が老化するために妊娠しないことは、卵子提供を受けたら妊娠できた海外の事例で明らかになりました。日本では卵子提供は困難です。

P11体外受精

→体外受精に危険はないのか、厚労省が調査中と数年前に新聞で見ました。その後この件について調べていないので良く分かりませんが、体外受精で生まれた子どもに何らかの異常が通常より多くみられるとのことでした。体外受精で生まれたと私が知っている1人の子は、中学生時点で網膜がはがれる恐れがあるので激しい運動はしないようにと医者に言われていました。

体外受精でも妊娠しない場合は顕微鏡授精になりますが、数ある精子の中から状態のいいものを選ぶのは当然でしょう。しかし自然状態でもその精子が精子競争を勝ち抜いて受精できたとは限りません。意図しないうちに”命の選別”が行われ、生まれるはずでなかつた子どもが産まれるかもしれません。

不妊治療といいますが、その大半は治療ではなく妊娠指導と、人為的に受精させているだけのことで。上記の理由から、安易に不妊治療を行うことはおすすめできませんし、「不妊治療があるさ」と将来設計を甘く見てほしくないのです。

<私が考えた記事の順番>

- ①序文・・・写真は最後の中学生が赤ちゃんを抱っこしているもの
- ②体験教室
- ③赤ちゃんが産まれるまで
- ④産婦人科
- ⑤低出生体重児
- ⑥出産環境(P6)
- ⑦不妊治療
- ⑧人工中絶・・・図表を用いてしっかり取り上げてほしいです
- ⑨(人口減少)・・・別の記事にした方が良いと思ひます
- ⑩結び・・・写真は序文の赤ちゃん

<子どもをもつということ>

私自身、子どもを産んだのは家のためが大きかつたし、当時は何の知識も考えも無く産んでいたので大きなことを言える立場ではありません。ただ、子どもは親を選んで生まれてくるのだと先天性の病気を持って生まれた我が子を見た瞬間に分かりました。池川明先生の著書にも、誕生時の記憶を持つ子どもの話として紹介されています。子どもは親を助けるために生まれてくることも多いので、親は感謝して子どもを育てなくてはならないと思ひます。心を込めた子育てが親自身を癒し、成長させてくれるのです。

人口減少は自治体にとって非常に大きな問題ではありますが、このような形で結びつけられることに抵抗を感じます。自治体のために子どもを持つなどと考える人はいるのでしょうか。もっと自然に子供を欲しくなる記事を期待しています。

(五里霧中さん 伊集院町 50代女性)

お便りありがとうございます!まずもって特集にこのように真摯に向き合っただけましたこと感謝申し上げます。また様々なご意見いただきましてありがとうございました。また学び直し、広報誌作成に励んでいきたいと思ひます。お便りいただきましてありがとうございました!!





フリートーク

～日置市のこと、身近な話題等なんでもお聞かせください～

妙円寺詣り歩きました(25日土曜日)。最高の天気で、たくさんの方が歩いていました。途中、麦茶、黒砂糖、梅干し、おいしいお芋、ふくれ菓子、甘酒まであり、おいしくて買いました。神社にお詣りし、大好きな太鼓踊りを見ました。大田太鼓踊り、伊作田踊り、諏訪太鼓踊り、徳重大バラ太鼓踊りといずれも勇壮で力強く、元気をもらい楽しい一日でした。毎年楽しみに見に行きます。

(太鼓踊り大好きさんさん 伊集院町 70代女性)

伊集院の中心地は行くたびに綺麗になっているようです。中心地だけに偏っているように思われます。吹上町は年増たびに寂しくなっています。どうか、何とか力を入れて頂きたいものです。婦人の集いでも生の声が出ます。

また市営入浴場は鹿児島・枕崎・川辺からのお客様も多いです。まだまだ続行をお願い申し上げます。ふるさとの支援に長男が協力しているので、まだまだ続けるよう進めています。

(中間フチ子さん 吹上町 80代女性)



お便りありがとうございます!土曜日は本当にすてきな天気でしたね。地域の多くの方がサポートしてくださり、妙円寺詣りが支えられています。太鼓踊りも太鼓踊り大好きさんがおっしゃるように、その勇壮さは一見の価値ありです!!またぜひ来年もお元気で歩かれてくださいませ。

お便りありがとうございます!市政にご意見、ご提案いただきましてありがとうございます。これから全国的に人口が少なくなっていく時代に突入していきます。いただいたご意見は担当課に繋がさせていただきたいと思っております。お便りいただきありがとうございます。



広報ひおき × 図書館

「自分らしく紡いでゆく物語」関連の特設コーナーできました!!

10月号特集「それは奇跡から始まる物語」で好評をいただいた「広報ひおき×図書館」のコラボレーション企画。本当に多くの方が立ち寄ってください、ご利用いただきました。そして、再び各地域図書館のご協力により特設コーナー第2弾として、今回の特集「自分らしく紡いでゆく物語」の特設コーナーを開設させていただきました。

今回そろえてくださったのは、終活に関する本やロコモ予防に関する本など。また、関連する書籍として認知症についての本などもそろえています。

今回も各地域の図書館でそれぞれ特設コーナーを開設しており、読みたい本が別地域の図書館にある場合は、各地域の図書館同士で蔵書をやり取りして、取り寄せてお近くの図書館で借りることもできます。

第2弾の開設は11月末までを予定しています。この機会にぜひお立ち寄りください。



中央図書館の特設コーナー

好評企画第2弾。先月は特設コーナーから本がほとんど無くなることも。ぜひこの機会にご利用ください!!

